



SAAJ本部 主要部会・研究会ご案内資料

(2024年度) 関東地区主催 会員向け SAAJ活動説明会
2024年10月26日(土) 開催
にての説明資料

認定NPO法人日本システム監査人協会

1. 基準改訂委員会（主査：松枝憲司）

(1/2)

基準改訂委員会の目的

- ①経済産業省が公表している「システム監査基準・管理基準」とその実施方法や着眼点を記載したシステム監査・管理基準ガイドライン等を策定・更新して公表する。
- ②本ガイドラインの広報と普及活用を図ることでシステム監査人及び本協会の認知度の向上等を図る。

1. 活動の概要、体制等

- 1. システム監査・管理ガイドラインの策定と公表及び普及活動
- 2. 事業体制
 - ① テーマ別ガイドラインの作成
 - ・ 日本システム監査人協会
 - ・ システム監査学会他
 - ② 研修セミナーの開催等

基準改訂委員会（2023年度の活動メンバー）

主査：松枝

メンバー：SAAJ会員8名.テーマ別ガイドライン策定に向けて募集（ITアセスメント研と連携）

基準改訂委員会 活動実績（2024年10月現在）

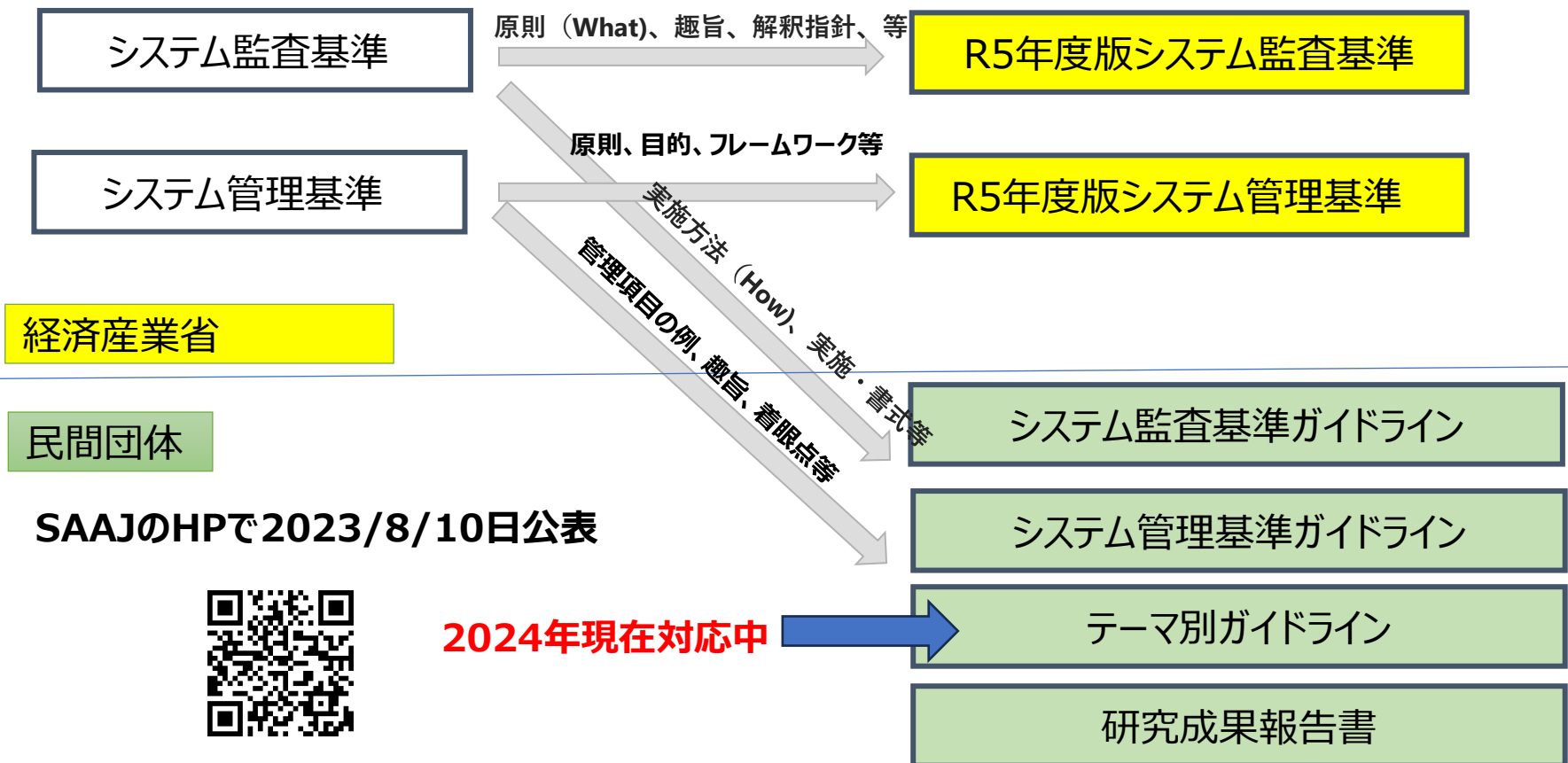
- システム監査・管理基準ガイドライン（案）の公表とパブコメ募集（2023/5）
- システム監査・管理基準ガイドラインVer1を日本システム監査人協会HPより公表（23/8）
- システム監査・管理基準ガイドラインの活用に関するセミナーの開催（関係団体）（23/9）
- テーマ別ガイドライン案の検討開始（23/12～）
 - リスクアプローチに関するガイドラインの公開予定（24/11） その他原案検討中

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

【参考】基準・ガイドラインの所管、メンテナンス主体

(2/2)

- システム監査基準及び管理基準本体は経産省が管理更新を担当する。
- システム監査基準ガイドライン及び管理基準ガイドラインは、連絡会参加団体にて協力して管理更新する。代表団体は日本システム監査人協会（SAAJ）が務める。



2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

(1/2)

CSA利用推進Gの目的

- ① 協会の認定資格であるCSA・ASAの社会的な認知度を高めるための諸活動を推進
- ② 上記のために、CSA・ASAの力量向上に資する活動を推進
- ③ CSA・ASAのコミュニケーションの活性化を支援

活動の概要、会議頻度等

- CSAフォーラムの開催
（講師を招き、勉強会形式の研修会をオンラインで開催、対面の時は懇親会も実施、3～4ヶ月に1回の開催目標、1回2H）
- CSA利用推進に関する広報（DM等）
- メンバー会議（不定期）
- CSA交流会（過去1回開催）
- その他

CSA利用推進Gのメンバ

主査：斉藤茂雄（副会長）

メンバ：億谷和彦（理事）、淡路洋平（理事）、田村修（理事）、森岡俊也（理事）、大西智（監事、オブザーバー）

CSA利用推進G 活動実績

- CSAフォーラムの開催：2008年9月より通算42回開催
※CSAフォーラムはCSA・ASAの皆様が、システム監査に関する実務や事例研究、理論研究等」を通して、システム監査業務に役に立つ研究を行う場です。CSA・ASA同士のフェイスtoフェイスの交流を図ることにより、相互啓発や情報交換を行い、CSA・ASAのスキルを高め、よってCSA・ASAのステータス向上を図ります。
- 主要自治体向け「入札条件に関するお願い」DM発送（2023年12実施）
- システム監査技術者試験会場での、入会案内、小冊子配布（2024年10月実施）

2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

（2/2）

課題等

- 官公庁、地方自治体等の一部にCSA・ASAを認知されつつあり、CIO補佐官の登用等がありますが、一層の推進が必要です。
- CSA・ASAの知名度向上のための施策アイデアがあればご提案を歓迎します。
- CSAフォーラムの発表者を募集中です。1～1.5H発表いただいて、参加者で内容について意見交換します。テーマは特別設けていません。活動時間はCSA・ASAの継続教育時間として充当可能です。

公認システム監査人（CSA）、システム監査人補（ASA）の募集について

- ❑ 2025年春期の募集期間は、**2025年2月1日～3月31日** となります。
- ❑ 資格取得をお考えの方は是非この機会にチャレンジをお願い致します。
- ❑ 同僚や部下にまだCSA・ASAを取得していない方がおいでなら、是非勧奨お願いします。
- ❑ ご不明の点は協会HPの問い合わせ画面（下のURL）からお問い合わせください。

CSA/ASAの認定カード（有償）について

- ❑ 協会ではCSA/ASAの希望者の方に認定カードを発行しております。
- ❑ 以下のURLを参照ください。

https://www.saa-j.or.jp/csa/pdf/nintei_card_shinsei.pdf

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html



3. 月例研運営委員会（主査：戸室佳代子、副主査：豊田諭、億谷和彦）（1/1）

月例研運営委員会の目的	月例研究会参加のメリット
① システム監査に役立つ幅広く専門的な知見を提供することを目的に、月例研究会を運営しています。 ② 月例研究会を通じてSAAJを知り、入会のきっかけとしていただくために、会員だけでなく一般のご参加も受け付けています。	➤ システム監査に必要な幅広い専門分野について有識者から詳しく講演を聞くことができます。質問もできます。 ➤ システム監査に関する重要テーマや動向を知ることができます。 ➤ リモート開催なので、どこからでも参加できます。

月例研究会 開催実績（開催形態：年10回 2時間/回 リモート開催）

- ❑ 第282回「JIS Q 15001:2023個人情報保護マネジメントシステム-要求事項」改訂について
- ❑ 第283回 ISMAP制度改善概要と今後
- ❑ 第284回 企業価値向上と監査機能の高度化
- ❑ 第285回 ITガバナンスのアセスメント規格（JIS Q 38503）について
- ❑ 第286回 グローバルな越境移転ツール（CBPR認証制度）について
- ❑ 第287回 IoTに求められるセキュリティ要件と法規制対応
- ❑ 第288回 JUAS「企業IT動向調査2024」の結果からみる転換期に挑み輝くIT部門の役割
- ❑ 第289回 BCP研究会設立記念講演 ソリューションから見るIT-BCP構築の勘所
- ❑ 第290回 個人情報保護法の基本
- ❑ 第291回 海外子会社におけるセキュリティ対応の現状と課題について

4. 会報部会 (主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、豊田諭) (1/2)

会報部会の目的	活動の概要
① 会報が、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場、また、情報交換の場となるように。 ② システム監査に関する啓発・広報活動の一翼を担うため。	● 毎月25日に発行し、協会のホームページに掲載する。 ● SAAJの会員及び研究会、部会、各支部から投稿記事を募集する。 ● 投稿記事には、匿名と記名投稿がある。 ● 会報の年間テーマを決めている。 【2024年：時代が求めるシステム監査】

会報部会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、豊田諭

編集支援：松枝憲司(会長)、各副会長、各支部長

メンバー：石山実、金田雅子、坂本誠、田村修、辻本要子、野嶽俊一、山口達也

会報部会 活動実績

- 会報1号は、1988年2月に発行されました。(当時は隔月発行、紙媒体、会員に郵送)
- 会報108号(2009年6月号)から電子版となり、郵送は廃止になりました。
- 2017年10月には、会報全号がバックナンバーとして閲覧できるようになりました。
- 会報は、毎月メンバー持ち回りで編集しています。
- 発行後、国立国会図書館に納本されています。
- 毎年総会で、投稿された記事から優秀記事を表彰しています。(通称:会報アワード)

4. 会報部会（主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、豊田諭）（2/2）

会報記事募集内容

会報への投稿は、システム監査にとどまらず、情報社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎します。

- 巻頭言(SAAJ会長、副会長から投稿)
- 投稿記事「めだか」：エッセイ、思い
- 実名投稿：研究成果、エッセイ、思い
- 部会、研究会からの活動報告
- 書評、意見箱、投稿への質問
- 注目情報、協会からのお知らせ等

会報投稿のメリット

- SAAJ会員であれば、どなたでも投稿可能です。
- システム監査人としての思いが投稿できます。
- 会報を通して、自分の考えを、多くの人に知ってもらうことができます。
- 投稿された記事が、国会図書館に納本されます。

会報部会 その他

- ❑ 会報の編集に興味がある方、会報部会への入会を歓迎します。
- ❑ 会報部会に入会されても投稿が可能です。
- ❑ 2017年11月号(200号)に「会報に見る30年の歩み」が掲載されています。

連絡先

会報部会 主査 竹原豊和 宛 <mailto:saajeditor@saaj.jp>

5. 法人部会（主査：山口達也）

(1/2)

法人部会の目的

システム内部監査・外部監査を「業務として実施」している企業担当者や、個人事業者が、業務としてのシステム監査に関する情報交換・協力等を通して、わが国におけるシステム監査の普及・啓発を図ること、そして、そのことを通して会員企業等の事業の発展に寄与することを目的としています。

活動の概要、会議頻度等

- 法人組織におけるシステム内部監査業務や、外部監査人としての監査業務等、業務としてのシステム監査を実施する上でのテクニックや最新動向を含む各種情報交換を主な目的として活動しています。
- 2月、8月を除く原則毎月第2火曜日に定例会を開催しています。

法人部会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：山口達也

メンバー（敬称略）：小野修一、斉藤茂雄、齊木孔二、真鍋直緒、松井秀雄、
浦上豊蔵、鈴木章彦、勝部武樹、石山実 他

法人部会 活動実績

- オンラインミーティングを利用した定例部会運営の実施
- 地方自治体向け情報セキュリティセミナーの再開（2023/12再開）
- 地方自治体向け情宣活動（DM発送）の再開（2023/11発信）
- 情報セキュリティセミナー内容の改訂検討・改訂作業（適宜）
- システム監査普及にかかわる活動計画
- 協会会報における法人会員紹介記事掲載の掲載（適宜）
- 活動環境（Google Workspace等）の積極的試行・活用検討

5. 法人部会 (主査：山口達也)

課題、募集内容、人数等

- 企業に属されている個人会員の方は、システム監査人協会の活動のメリットについて、是非とも、自社企業でアピールして頂き、法人会員としてご参加をご検討下さい。
- 起業されている個人会員の方も、法人会員のメリットや、システム監査の普及、啓発のため、是非、法人会員としてのご登録をご検討下さい。

法人部会参加のメリット

- 企業の規模によりますが、最大10名の方が、個人会員と同じ条件で、協会活動に参加できます。
- 法人会員企業の社員職員は、月例研究会講演に何人でも会員料金で参加できます。
- 現在検討・準備中の情報セキュリティセミナーの講師として活躍できる機会ができる予定です。地方自治体とのコネクション醸成に役立てて頂けます。

その他

- ❑ 部会後の懇親会等、メンバーが楽しく、ざっくばらんに意見が述べられるような雰囲気作りを、歴代主査の方々が築いてきてくれました。外部環境状況により活動を自粛していましたが、状況の好転を受け、順次再開を始めました。
- ❑ 従来からシステム監査を巡る環境も大きく変更になっています。例えば情報セキュリティセミナーの内容等は最新の状況に合わせた内容に適時修正する、私たちの活動方式自体も新しいツールの活用等を通して積極的に変更する等、常に時代に合わせた活動を心がけていきます。

お問い合わせ https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝） （1/2）

システム監査事例研究会の目的

システム監査の普及を目的とした監査普及サービスおよび各種セミナーを実施し、システム監査スキルの向上を図ります。

活動の進め方

- ✓ システム監査普及サービス…引合いの都度（最近では2020年度、21年度、22年度に実施）
- ✓ システム監査実務セミナー…年2回
- ✓ システム監査実践セミナー…休止中
- ✓ 事例に学ぶ課題解決セミナー…休止中
- ✓ 普及サービスの事例、事例に学ぶ課題解決セミナーの事例にもとづく実務・実践セミナーの新教材の作成および講師の育成…通年
- ✓ 定例会…毎月第一水曜日

活動実績

- システム監査普及サービス約30例
- システム監査実務セミナー44回
- システム監査実践セミナー36回
- 事例に学ぶ課題解決セミナー22回

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝） （2/2）

入会について

システム監査事例研究会は、協会の中でも、最も身近で実践的な活動を行っている研究会です。参加者の主体的な活動ができ、やる気次第で活動の幅は広がっていきます。

- 普段、システム監査に係わる機会のない方には、普及サービスの実施、セミナー教材の作成などの作業を通して、機会に触れることができます。
- セミナーの講師を行うことで、様々な受講者と交流を深めることができます。
- システム監査スキルの向上を目指した研究・学習活動ができます。定例会ではご自身で興味あるテーマを設定して発表・討論を行うことができます。
- 定例会開催後、懇親会を行い、交流を深めています（現在は休止中）。様々な情報交換の場となっています。

研究会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：野田正勝
メンバー：13名

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

7. 情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）

（1/2）

情報セキュリティ監査研究会の目的

デジタル社会の発展、DXの推進、ならびにクラウド、IoT、テレワーク、生成AIの活用など、デジタル化および適用分野は急拡大している。すなわち、システム監査の対応すべき領域、業種、技術が進展しており、監査のリスクと対策の再認識、ルールの見直しが求められています。また、従来からセキュリティ事故やサイバー攻撃が続いており、大規模な被害が発生しています。このような状況下で、当研究会では、ITおよび応用分野、セキュリティ等に係る現状と動向について、範囲を広げて調査して俯瞰的に把握し、課題等についてを整理し、さらには、個別テーマとして研究し、これらを通じてシステム監査／情報セキュリティ監査に役立てることを目的として活動を進めています。

活動の進め方

- 各メンバーがITおよび応用分野、セキュリティ等について、各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれにおいてトピックスを見つけ、あるいは現状と動向を調査して俯瞰的に把握して、システム監査／情報セキュリティ監査に役立てる。
- さらに現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄って、課題等を整理する。
- これらを基に、各メンバーの得意分野あるいは興味を持つテーマをコアにして、「個別の研究テーマ」を適宜に定めて研究活動を進める。
- 必要に応じて、テーマに詳しい知験者（他団体、SAAJ会員など）に参加頂いて活動レベルの向上を図る。

<定例会>

原則月1回（第4木曜日）19:15～20:45、協会事務所およびWeb会議を併用。

7. 情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）（2/2）

活動実績（テーマ）

- ✓ 2016年、2017年…「経済産業省・情報セキュリティ管理基準およびFISC安全対策基準の活用」、「大規模個人情報流出事案の原因究明」、「世界的な規模で発生 of ランサムウェア」etc
- ✓ 2018年…「情報セキュリティサービス基準」、「FISC安全対策基準（第9版）」、etc.
- ✓ 2019年…「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第3版・情報セキュリティ部分」etc.
- ✓ 2020年…「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」etc.
- ✓ 2021年、2022年、2023年…「サイバーセキュリティ実績／計画」、「情報セキュリティ白書」レビュー、「ランサムウェア／脆弱性対策としてのMITRE ATT&CKについて」etc.
- ✓ 2024年…各種白書（情報セキュリティ白書、AI白書、等）、NIST サイバーセキュリティフレームワーク2.0、ランサムウェア動向、大学・高等学校におけるセキュリティ教育、など。

主査：舘岡均 メンバ：16名 座長（浅野）、副主査（齊藤茂雄、豊田、永井徳人、竹原、大西）、村上、小林、麻生、淡路、森岡、細川、鈴木、柳田、有地、姥貝。アドバイザー：米川敦1名、オブザーバ7名

参加について

- メリットとしては、広い分野の知見が得られ、自身の研究成果の発表、広報、等の機会が出来る。
- **次のような活動に賛同される方の参加を歓迎します。**
 - ✓ 各メンバーがビジネスマナーを遵守し、お互いの考え方を尊重することをベースとしてコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。
 - ✓ 研究テーマの対象範囲が広いので、前述の＜活動の進め方＞のように研究活動を進めて行く。
 - ✓ 参加メンバーは、ITおよびセキュリティ等のトピックス、現状と動向調査、自身の研究内容などについて、研究会にて話題を提供する（月1回）。

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

活動概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントととらえて、システム管理基準ガイドラインの活用に関する研究を行います。

具体的には以下のテーマに取り組みます。

(1) ITガバナンスに関連する事項

- a) JIS Q 38500 : 2025(予定、ITガバナンス) の活用と普及
- b) JIS Q 38503 : 2024(予定、ITガバナンスのアセスメント) の活用と普及
- c) ISO/IEC 38501 (ITガバナンスの実装) の改定プロジェクトに国内委員会 SC40WG1を通じて参画

(2) システム監査・管理基準ガイドラインの活用法、テーマ別ガイドラインの研究等

システム管理基準ガイドラインを現場でより活用できるよう補足・改訂等を研究する本基準や赤本*の活用に興味がある方歓迎です。

(3) システム監査・管理基準ガイドライン運営委員会への参画

システム監査関係団体及び経産省による本委員会および個別WGに参画しシステム監査・管理基準ガイドラインの開発に貢献している。

(4) 生成AIの活用

システム監査・管理基準ガイドライン、DX、デジタルガバナンス情報分析などの研究

(1)、(2)、(3)は統合的に進めます。英語の得意な方はより歓迎。できなくても歓迎です。

進め方

研究会開催日時

1回/月の定例会を開催（Google meet）

活動実績

- 過去システム監査基準研究会として、「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第2版」「IT統制監査実践マニュアル（黄本）」の発刊や「システム管理基準forオフショアVer1」の発表等、システム管理基準の活用に関する研究を中心に行ってきた。
- 2020年6月に赤本*（3版）を出版した
<https://www.saaaj.or.jp/shuppan/130903Akahon3Chirashi202104.pdf>
- R5年度の経済産業省の「システム監査基準とシステム管理基準の改訂委員会」に参画し、両基準（4月）及び両基準ガイドライン（8月）の発行に貢献した。
<https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/sys-kansa/>
<https://gl.systemkansa.org/>
- ITガバナンスのアセスメントに関する規格 ISO/IEC38503の開発を支援した（2022/1発行）。
- JISQ38503の開発に参画した（2024年内発行予定）。
- ISO/IEC38500（ITガバナンス）の改定プロジェクトに参画した（2024年2月発行）



研究会参加のメリット

- ✓ ITガバナンスの基準に関する具体的な活用方法やITガバナンスをアセスメントする具体的な方法についての知見を獲得できる。
- ✓ ITアセッサとして、自身のビジネスの拡大に繋がる可能性がある。
- ✓ システム監査人として新たな活躍の場をメンバーとともに探っていただけます。



お問い合わせ https://www.saaaj.or.jp/toiawase/saaaj_toiawase.html

9. 個人情報保護監査研究会 (主査：斎藤由紀子) (1/2)

研究会運営について

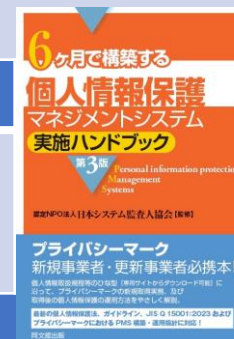
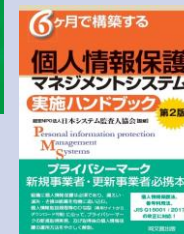
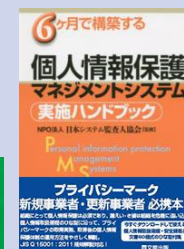
個人情報保護監査研究会は、個人情報保護マネジメントシステム（以下PMSという）について、JIS規格、及び法令遵守の観点から研究調査活動を行っています。プライバシーマーク（以下Pマークという）付与適格性審査や、事業者におけるPMSの悩み等から、課題を発見して、原因を追究し、対策を検討していきます。各メンバーが興味のある研究テーマを選び、定例会だけでなく、メーリングリストを利用して、最新情報の共有や意見交換を行っています。

また、社会貢献の観点から、監査サービス、研修等PMS普及に取り組んでいます。

定例研究会：第3火曜日18:30～20:00 (Zoomリモート開催)

主な活動実績：

- ・ 2010年4月 個人情報保護監査研究会 再発足
- ・ 2014年12月 「PMS実施ハンドブック」(オレンジ本)出版。
- ・ 2015年9月 番号利用法改正を反映。 2016年5月 保護法改定を反映。
- ・ 2019年7月20日 「PMS実施ハンドブック」(第2版)出版
- ・ 2020年6月12日 保護法2020改正(2022/4/1施行)を反映
- ・ 2021年5月19日 保護法2021改正(2023/4/1施行)を反映
- ・ 2022年4月1日適用 プライバシーマークにおけるPMS構築・運用指針を反映
- ・ 2024年5月11日 「PMS実施ハンドブック」(第3版)出版
- ・ 2024年7月11日 「PMS実施ハンドブック」(第3版)電子書籍販売開始



研究会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：斎藤由紀子（副会長）、副主査：永井孝一（理事）

メンバー：岡田和也、小川京子、小林久芳、五味巻二、坂本誠（理事）、
杉本明美、田口喜久、成田佳應、村上進司、吉谷尚雄（近畿）

お問い合わせ https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

9. 個人情報保護監査研究会（主査：斎藤由紀子）（2/2）

活動概要

個人情報保護監査研究会は、PMSについて、以下のような研究成果を活用した情報サービス等も行っています。

（1）個人情報保護監査サービス

これからPマークを取得される事業者、および更新審査を控えている事業者を対象に、経験豊富なPマーク審査員またはシステム監査人が、第三者として客観的な観点から「個人情報保護監査サービス」を提供します。詳細はこちら

<https://www.saa-j.or.jp/shibu/Kojin/kojin-service.html>

（2）「6ヶ月で構築するPMS」セミナーの開催

「6ヶ月で構築するPMS実施ハンドブック」を用いて、セミナーを開催します。

- 基本コース：月1回 14時～17時（3時間）×6ヶ月
- 料金：100,000円(+税)/1名～（1社3名以上割引あり）
- 会場：日本システム監査人協会本部会議室（茅場町）/もしくは、Zoomリモート接続
- テキスト（別売）：「6ヶ月で構築するPMS実施ハンドブック」（第3版）¥3,850円
書店、もしくは「書籍注文書.PDF」をダウンロードし、FAX/Mailでお申込みください。

<https://www.saa-j.or.jp/shibu/Kojin/130706HBV3Tokubetsu.pdf>

（3）システム監査人の推薦

PMS構築やPMS監査に関する支援や相談を希望される事業者には、システム監査人推薦制度に基づき、講師やコンサルタントを推薦します。詳細及び申込み方法は、こちら↓

<https://www.saa-j.or.jp/csa/recommend.html>

個人情報保護マネジメントシステム構築・運用に関するQ&Aコーナー

- ◆質問は、お問い合わせへ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html
- ◆回答は、個人情報保護監査研究会メンバーが行います。
- ◆回答のもたらす結果について当協会及び回答者は責任を負わないものとします。
- ◆質問者の所属、氏名、メールアドレス等は回答に必要な範囲のみで使用します。質問及び回答については、質問者の組織、氏名を特定できないようにして、さらに内容を一般化して当ホームページに掲載することがあります。質問のメールは回答後、一ヶ月以内に削除します

10. プロジェクト監査研究会 [PJA研]

(主査 : 原田憲幸(理事))
(副主査 : 細川健一(理事))
(副主査 : 園田 博(理事))

(1/2)

活動概要

「監査など役に立たない」とよく言われます。開発終盤の監査で「ここがダメ、ここもダメ」と指摘されても手遅れで、ダメなところは指摘されずとも分かっているからです。私達は「役に立たない監査」でなく、「**開発を成功させる監査**」をテーマに活動し、「プロジェクト監査本」2冊を出版しています。

「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」(青本)2018年出版

「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」(緑本)2020年出版

(読者特典「プロジェクト監査項目表(Excel版)」ダウンロード提供)

現在は全体会議と2つの分科会で、事例等の発表や監査項目改訂を行っています。



研究会の開催 (ZOOMリモート会議)、体制、メンバー募集

■ PJA研「プロジェクト監査研究会」原則隔月(金)18:30~13名 (本部10名、中部支部2名、北信越支部1名)
メンバー相互で事例・動向・開発技術等について発表、討議

■ 分科会1「成功するプロジェクト監査分科会」(テーマ) 成功の鍵・事例、監査項目表改訂
原則隔月(金)18:30~ 細川健一リーダー(理事) 大野勇進サブリーダー、他7名
現在、監査項目表を大改訂中、2024年末には読者に配布予定

■ 分科会2「DX(Digital Transformation)分科会」(テーマ) DX推進、サンプル企業のDXについて考察
原則隔月(水)19:00~ 園田博リーダー、他4名

■ メンバ募集中 (補助教材: 青本, 緑本)

2024 活動状況

(1)PJA研

第38回	4月19日(金)	「AI・生成AIの事例、悪用、セキュリティ」 (発表: 原田憲幸 理事)
第39回	5月24日(金)	「基幹系システムへのアジャイル活用」 (発表: 細川健一 理事)
第40回	6月21日(金)	「サイバー攻撃事例 (LockBit)」 (発表: 原田憲幸 理事)
第41回	7月19日(金)	「PMOについて」 (発表: 佐藤清隆 氏)

10. プロジェクト監査研究会 [PJA研]

(主査 : 原田憲幸(理事))
(副主査 : 細川健一(理事))
(副主査 : 園田 博(理事))

(2/2)

2024 活動状況

(1)PJA研

第42回	9月20日(金)	「監査項目表からみた30年ぶりの基幹系システム更改の考察」 (発表 : 加藤智康[中部支部] 氏)
第43回	10月18日(金)	「被災経験からのBCP見直し」(発表:藤田博史氏)
第44回	12月13日(金)	「基幹系システム更改に向けた人材育成」(発表 : 戸室佳代子 理事)

(2)分科会1 : 成功するプロジェクト監査分科会

第1回	2月2日 (金)	2024年計画、監査項目について議論
第2回	3月22日 (金)	監査項目改訂版へのコメント
第3回	5月10日 (金)	監査項目改訂5月版 説明、コメント
第4回	7月26日 (金)	監査項目改訂7月版 説明、コメント
第5回	9月26日 (木)	監査項目改訂9月版 説明、コメント
第6回	11月22日 (金)	監査項目改訂版 最終レビュー
第7回	12月27日 (金)	監査項目改訂版の確認、読者展開、 総括、次年度活動計画

(3)分科会2 : DX (Digital Transformation) 分科会

第34回	1月17日 (水)	2024年活動計画
第35回	3月27日 (水)	DXサンプル企業と課題
第36回	4月17日 (水)	DXサンプル企業の現状、推進状況
第37回	10月16日 (水)	DXのサンプル企業とDXの現状
第38回	11月20日 (水)	DX分科会での考察のフィードバック
第39回	12月18日 (水)	次年度計画、今後の活動

(分科会1) 「プロジェクト監査項目表 (緑本 付録)」
大改訂版を2024年末、読者に配布予定です

大項目 39 (アジャイル編 追加)
中項目 241 解説/事例 : 280件掲載
詳細項目 1216

■プロジェクト監査本 2割引購入チラシ

<https://www.saa.or.jp/shibu/Projectkansa/130804PJACHirashi.pdf> (SAAJ林-ハ-ジ 出版物案内)

お問い合わせ : saaiprojaud1092@saa.jp



11. BCP研究会 （主査：荒町弘）

(1/2)

BCP研究会の目的

組織におけるBCPに役立つ情報発信を行う
IT-BCPに関する監査基準・ポイントを整理する

活動の進め方

- ✓ 定例活動…毎月第2水曜日を基本とした月例会議の開催（オンライン）
- ✓ IT-BCPセミナーの企画・実施…年1回以上
- ✓ セミナー教材の整備（2024年は失敗原因マンダラ図の応用）
- ✓ 関係団体との共同活動…事業継続推進機構（BCAO）との連携を2022年より継続

これまでの研究テーマ

- ✓ 中小企業のIT-BCP／IT-BCP監査の着眼点
- ✓ 地方公共団体のICT部門におけるICT-BCP
- ✓ レジリエンス認証とシステム監査
- ✓ テレワーク環境におけるIT-BCP

2024年活動実績

2月：会員による内部勉強会「失敗学概論とIT版失敗原因マンダラ図作成」
3月～6月：第2回～第5回定例会議（毎月開催）
7月：SAAJ 第289回月例研究会 BCP研究会設立記念講演（講師：大塚純一氏）127名
7月～9月：第6回～第8回定例会議（毎月開催）
9月：第1回IT-BCPセミナー（事例考察）開催 184名

11. BCP研究会 (主査：荒町弘)

(2/2)

活動の経歴について (イベント開催及び執筆等)

- 2010年 BCP研究会活動開始 (同年A社との共同取り組み開始) ※SAAJ近畿支部
- 2014年 IT-BCP体験セミナー開催／西日本支部合同研究会にて活動報告
- 2015年 IT-BCP体験セミナー開催
- 2016年 IT-BCP体験セミナー開催(大阪市ICT戦略室向け)
- 2018年 協会報2月号記事掲載【ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題】
- 2019年 レジリエンス認証制度とシステム監査について研究
- 2020年 情報システム監査実践マニュアル第3版 (グループで執筆)
(第3部 第10章 レジリエンス認証制度とシステム監査)
- 2021年 協会報8月号記事掲載【ワーク環境におけるBCPの考え方】
- 2022年 ワーク環境とIT-BCPの研究～BCAO ITサイバーワークフォースとの連携開始
- 2023年 IT-BCP体験セミナー開催 (2月25日、10月28日)



【2024年より活動を本部に移す】

- 2024年7月 第289回月例研究会 BCP研究会設立記念講演 (講師：大塚純一氏)
- 2024年9月 第1回IT-BCPセミナー (事例考察) 開催 (9月13日)

研究会メンバ (直近1年間の活動メンバー)

主査：荒町弘

メンバー：14名 計15名 (関東地区8名、関西地区7名)

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html